

滋賀

# GPN



News

第30号 2016年8月  
滋賀グリーン購入ネットワーク  
ニュース



環境への負荷が小さい商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

## 「MORIと暮らしの研究会」に 参加しませんか？

### 家の近くにある森林を、最近訪れたことはありますか？

はじめまして。私たちは甲賀の森を拠点に、森と暮らしをもっと身近につなげたいと活動している「MORIと暮らしの研究会」です。昨年、滋賀グリーン購入ネットワークの会員の中で、森・暮らしをキーワードに生業としているメンバーが集まり活動を開始しました。

ほんの数十年前まで、森と私たちの暮らしは切っても切れなかったのですが、いつの間にかそのつながりが、プツンと切れて森からどんどん人と暮らしが遠ざかっています。森は様々な問題を抱えることになりました。

暮らし・人が森から遠ざかることは、森を自然に還すことで問題ないと思われがちですが、人が入ることで保たれていた関係が壊れ、水害や獣害を引き起こすことにもなります。また、山の所有者が無関心になってしまうことで、森林利用するにも誰の山なのかわからなくなってきているのが現状です。

松茸やキノコ、木の実が沢山取れて、薪を使うことで暖房や調理エネルギーでもあった森。暮らしや住まいに欠かせない「恵みの森」だったはずが、現在は何も生まない、逆に維持管理だけが掛かってしまう「厄介な森」へと変わり果てています。

私たちは身近な森をもう一度見直してもらい、暮らしに役立つ森、エネルギーとして活用できる森として皆さんにご紹介し、森の再生と活性化を行い、それによって地域の皆さんが豊かになれるような姿を目指して活動しています。



MORIと暮らしの研究会  
(旧:滋賀県産材利活用推進研究会)  
リーダー 吉本 智



組手什甲賀とその使用例



組手什甲賀デザインコンテスト(2015.11.23)

昨年は、滋賀県産の丸太から簡単組立てキット家具「組手什甲賀」を加工生産し、デザインコンテストを実施して「三方よしエコフェア」で優秀作品の製作者を表彰しました。本年度は、甲賀木の駅プロジェクトさんと連携し、立命館守山高校の学生と留学生を甲賀の森へ案内、木を使ったワークショップを開催予定です。興味がおありの会員様、是非ご参加ください。一緒に楽しみましょう！

### INDEX



|                               |                         |
|-------------------------------|-------------------------|
| ●「MORIと暮らしの研究会」に参加しませんか? .. 1 | ●滋賀GPN会員でつなぐリレートーク      |
| ●Report1 「第4回定時会員総会」          | オーエル株式会社 ..... 6        |
| ◎会員総会 開会挨拶 ..... 2            | ●滋賀GPN新規会員募集中! ..... 6  |
| ◎公開シンポジウム ..... 2             | ●新規会員からひとこと ..... 7     |
| フロアトーク ..... 4・5              | ●新ロゴマークが決まりました! ..... 7 |
| ●Report2 滋賀の企業の環境貢献活動         | ●会員発エコ商品情報 ..... 8      |
| はじめの一歩セミナー .. 4・5             | ●編集後記 ..... 8           |

## Report 1

## 第4回定時会員総会

●開催日：2016年5月26日(木)

会員総会終了後に一般公開のシンポジウムを開催し、159名の皆様にご参加いただきました。その一部をご紹介します。



## 会員総会 開会挨拶

滋賀GPN会長 秋山 道雄

昨年の9月に琵琶湖保全再生法、12月にパリ協定と大きな動きがありました。琵琶湖の環境問題では、水質汚濁より生物多様性をめぐる問題の方が大きくなっています。滋賀GPNでも「生物多様性とCSR研究会」が昨年立ち上がりましたので、ぜひ皆様も研究会メンバーと交流しながら活動を深めていただきたいと思います。

4月に幹事で勉強会を開き、設立時の状況を振り返りながら今後の活動について考えました。近江商人の「三方よし」は、正にグリーン購入活動だと納得したり、少子高齢化に伴って出てくる様々な社会問題と我々の活動との関係性を考えさせられたりしました。グリーン購入も近江発ですが、今また新たな近江発の社会企業的な動きが出てきており、中央官庁も注目してきている状況です。今後は環境、福祉等、地域活動を全般的に捉える必要性を感じながら、今後も活動を続けていかなければと再認識しているところです。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### 公開シンポジウム「びわ湖から考えるCOP21の表と裏 ～持続可能な社会をつくるための、企業・行政・市民の役割～」

## 「COP21を踏まえた我が国の地球温暖化対策」

環境省 地球環境局 地球温暖化対策課長 松澤 裕氏

気候変動に関する国際交渉は25年という本当に長い間、京都議定書から始まってCOP16のカンクン合意、今回のパリ協定の合意と大きく三段階に分かれて行われてきました。パリ協定には4つの特徴があります。①全ての国に適応される。②緩和策、適応策がバランスよく入っている。③中期目標だけでなく、2050年あるいはその先も視野に入れた取り組みがある。④そして5年ごとに目標を高めていくといったことです。

日本の約束草案目標は、2030年に温室効果ガス排出量を26%削減するというものです。その大半は、エネルギー起源CO<sub>2</sub>の削減となりますので、再生可能エネルギーの導入、省エネルギー等が重要です。部門別に見ると、特に家庭部門と業務部門の大幅削減が必要となってきます。

今年は温暖化対策推進法を改正いたしまして、国民運動、地域の取組の強化、国際協力の3本柱でやっています。国民運動は「COOL CHOICE」を

旗印に、低炭素な製品への買い替え、低炭素なサービスの選択、ライフスタイルの転換等をムーブメントにしていきたいと考えています。環境大臣をチーム長とするCOOL CHOICE推進チームを中心に、今後具体的な作戦を明らかにして国民運動を展開していきます。家庭における取り組みとしては、エアコン、冷蔵庫等を最新型の省エネタイプの製品に、照明器具をLEDに買い替え、置き換えていただくこと等があり、これを今後2030年にむけ15年かけて拡げていく必要があると考えています。

自治体の公共施設を中心にマイクログリッドを導入して、地域の自立的な再エネ導入を広げるモデル事業を今年から実施予定で、滋賀県では栗東市があります。自治体向けの普及啓発事業の補助事業もあるので、ぜひ滋賀の自治体とも一緒にやらせていただきたいです。





## 「パリ協定から見えてくること」

(特非)気候ネットワーク 事務局長 田浦 健朗氏

私達NGOの立場から、パリ協定はバランスの取れた、厳しすぎずゆるすぎない、そして進化していく協定だと評価しています。京都議定書の交渉時には温室効果ガス排出量の「削減」は「負担」であり、何とか他の国に押し付けたいという状況もありました。しかしパリ協定では、化石燃料時代が終わることが示唆され、「削減はチャンス」、「削減することで持続可能なよりよい社会をつくることできる」、だから「大きな削減をコミットするんだ」という状況に変わってきました。

欧米を中心に「ダイベストメント」運動が広がっています。化石燃料産業への投資撤退です。自治体、大学、企業等が表明して418兆円が動いています。再生可能エネルギーの電力に占める割合は、1990年代は日本も他の国もあまり変わりませんでした。それがその後ヨーロッパでは増え、デンマークでは45%、ポルトガル、スペイン等でも20~30%になっ

ています。一方で日本では停滞している。大きな差ですね。再エネ100%にコミットする企業も増え、有名企業も再エネを目指さないと生き残れないという戦略を描いています。滋賀でも地域密着型の企業がこの動きを先取りして、100%コミットしていく必要もあるのではないかと思います。

EU 28カ国では工業国のドイツも含めて、経済成長しながらCO<sub>2</sub>排出量を下げていく「デカップリング」が起こっています。日本も少しデカップリングの兆しがありますが、まだまだ課題が多いです。大きな課題の一つに石炭の問題があります。世界ではダイベストメントで石炭火力発電所の計画中止や廃止が進む中、日本だけが多数の新設計画があります。今やCool Japanではなく、「Coal Japan (コールジャパン)」だと言われています。必要なのは「COAL CHOICE」ではなく「COOL CHOICE」。琵琶湖のある滋賀からパリ協定の内容を実践することで、国や世界に波及効果をもたらしてほしいと思います。

## 「地球温暖化と琵琶湖～滋賀県の緩和策・適応策～」

滋賀県知事 三日月 大造氏



滋賀県には下流のことを考える人が多いです。周りの人のことや、人間だけじゃなく他の生き物のことを考える人が大変多くいらっしゃいます。そこから「三方よし」という考え方が生まれたのかもしれませんが。また、琵琶湖は「地球環境の小さな窓」。小さくもあり大切な窓だと私は考えています。そんな滋賀県が果たす役割、滋賀県で出来る事、滋賀県から発信することには、非常に意味があると考えております。

滋賀県の温室効果ガスの排出量は、2013年度CO<sub>2</sub>換算で1442万トン(速報値)。1990年度比で7.1%の増ですが、排出係数を2010年度で固定しますと90年度比14%減となり、一定省エネの効果もあるのではないかと思います。県の取り組みを少しご紹介しますと、地球温暖化防止活動推進センターにより省エネ診断、出前講座等、様々な地道な啓発の取り組みを進めています。また、新たな「貢献量評価」という仕組みを作りました。企業自らのCO<sub>2</sub>排出量の削減だけでなく、そこで生産された製

品・サービスが使用先でCO<sub>2</sub>排出量を削減する、その貢献度を評価するものです。滋賀県には低炭素社会を支える製品やサービスを作る事業所がたくさんありますので、それらをPRしながら日本の新しいエネルギー政策を引っ張っていきたいと考えています。

原発に依存しない新しいエネルギー社会を作ろうと昨年度「エネルギービジョン」を策定しました。エネルギーを『減らす』(省エネ・節電)、『創る』(再エネ)、『賢く使う』(効率的活用)、そして『支える』(産業振興・技術開発)という4つのポイントがあります。原発に依存しないとすると、排出係数の関係で温暖化対策との両立が大きな課題となります。これを克服するために、皆さんとの議論や今後の意見交換を基に、滋賀県ならではの「低炭素社会づくり推進計画」を作り、しっかりと温暖化対策に取り組んでいきたいと考えています。

## 公開シンポジウム 後半

●開催日：2016年5月26日(木)

## フロアトーク「持続可能な社会をつくるための、企業・行政・市民の役割」

コーディネーター：

(特非)葉の花プロジェクトネットワーク

代表 藤井 絢子 氏

パネリスト：環境省 地球環境局 地球温暖化対策課長

(特非)気候ネットワーク 事務局長

滋賀県知事

滋賀県立大学 RREC 受講生

滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 教授

松澤 裕 氏

田浦 健朗 氏

三日月 大造 氏

新村 佳嗣 氏

高橋 卓也 氏



田浦：小さな自治体が再エネ導入を検討する際には、地域において化石燃料をどれくらい使っていて何億円が地域外に流出しているか考えてみてください。太陽の光や水、風、森の力を活用して地域外にお金を流出せずに循環する仕組みがつけられます。温暖化対策が普及することは地域の活性化につながります。高齢化社会では、コンパクトな街づくりや公共交通の充実により、移動の困難な人たちが動きやすくなり、生活の質が向上することにもなると思います。



知事：琵琶湖を守る取り組みでは、琵琶湖だけでなく山も見て、木や土や生き物のことを考えた施策も充実させていきますし、環境こだわり農業も進めていきます。また、琵琶湖を守る取り組みは消費者や流通を巻き込んでいくものだとも思います。例えば、琵琶湖の森から作られたkikitoさんのノートや鉛筆、琵琶湖のヨシで作ったコクヨ工業滋賀さんの文房具等、「それなら買おう」と思える哲学で作られていることが消費者から選ばれる一つの理由だとも思います。



松澤：政府としてはエネルギーミックス計画に基づいて温暖化対策も作られています。石炭火力の計画はたくさんありますが、全部動いてしまうとエネルギーミックスが達成されなくなりますので、コントロールしていく必要があります。滋賀県の銀行が先進的に環境金融を進められています。そのように国の枠組みとは別に、志のある取り組みが地域から広がるのであれば、国は地域の先進的な取り組みをできるだけ後押しすることが必要だとも思います。ぜひ、琵琶湖、滋賀から、アジアや世界に向けてアピールしていただき、我々も一緒に努力していきたいと思っています。

## Report 2

滋賀の企業の環境貢献活動  
はじめての一步セミナー

●開催日：2016年6月10日(金)

●会場：草津市市民交流プラザ大会議室(草津市) ●参加者：71名

マザーレイクフォーラムとの共催で、びわ湖チャリティー100km 歩行大会実行委員会からの寄付金を活用して開催させていただきました。

笹谷 秀光氏の講演では、「発信型三方よし新経営戦略」等について興味深く拝聴し、様々な企業の取り組み事例を学んだ後、自分たちの「はじめての一步」について参加者間のディスカッションを行いました。参加者から「参加して非常に良かった」との声が聞こえ、多くの新たなつながりをつくれたセミナーとなりました。



(株)伊藤園 笹谷 秀光 氏





新 村：継承されない森林を整備して活用するために「山林バンク」の仕組みを考えました。実は作らなくても似たような仕組みが法律であるんです。山を相続したら届出しなさいと、でも誰もしないんです。罰則までついていますが、仕組みがぜんぜんエレガントではないからです。環境の取り組みも、美しくスマートでエレガントで、ワクワクするようなものであれば、もっと広がると思います。芸術の都はと聞かれたらパリと答えますよね。環境の都は？「滋賀」と答えるのが当たり前になるくらいにならないと、もったいないですね。



高 橋：滋賀GPNには、中小企業から大企業まで非常に様々な業種業態の企業、県と県内の全市町、各種団体等、500団体近い組織が会員として参画しています。「COOL CHOICE」では日常生活において「選択する」ことから地球温暖化対策が始まるわけですから、滋賀GPNは非常に重要な組織になるのではないかなと思っています。また、滋賀GPN内にある森林活用や生物多様性、ゼロエミッション等の研究会活動は、地球温暖化対策ともつながっており期待されます。環境活動をスマートにエレガントに進める事が、今後のテーマかもしれません。



藤 井：持続可能な社会に向けて、市民、自治体、民間企業がそれぞれの役割を果たしていけないといけません。温暖化対策というと「昔に戻る」不便な暮らしの話が出がちですが、そうではなく、生活の質が上がり、ちょっとおしゃれな暮らしができる。それによって地域で人が動き、物が動き、そして経済が回るという風にしていきたい。琵琶湖は地球環境の縮図のようなところなので、滋賀発で、世界にインパクトを与える活動につなげたいですね。



ディスカッションの様子

#### 開会挨拶

マザーレイクフォーラム地域連携WGリーダー 村上 悟

#### 基調講演 「これならわかる! 三方よしビジネスのコツ

～ 生物多様性保全と持続可能性を目指すCSR/CSV戦略 ～

(株)伊藤園 常務執行役員 CSR推進部長 笹谷 秀光 氏

#### 報 告 「これならできる! 滋賀の企業による様々な環境・社会貢献活動」

(株)琵琶湖ホテル コミュニティ室 スーパーバイザー 吾郷 令湖 氏

(株)ノエビア滋賀工場 坂本 公美恵 氏

滋賀建機(株) 専務取締役 蔭山 大輔 氏

(株)日吉 総務部総務課 課長代理 梶田 由胤 氏

#### 【第3回びわ湖チャリティー100km歩行大会について】

びわ湖チャリティー100km歩行大会 副実行委員長 太田 智真 氏

#### 報 告 「琵琶湖の現状と琵琶湖保全再生法の概要」

滋賀県 琵琶湖保全再生課 松本 直幸 氏

#### ディスカッション 「はじめの一歩～わが社にもできる環境活動とは?」

開会挨拶 滋賀GPN 「生物多様性とCSR研究会」リーダー 横地 富重

Relay  
Talk

滋賀GPN会員でつなく

## リレートーク&gt;&gt;&gt;

オーウエル株式会社  
京滋営業所 担当部長

岡部 完二



年々酷暑日が増え地球温暖化が進んでいると感じる中、常に環境保全活動への関心を持つよう心がけています。高島市で行われる竹林整備のイベントや琵琶湖のヨシ刈り、大津市や草津市などの環境フォーラムにも顔を出すようにしています。もちろん滋賀GPNの環境フォーラム等にも参加し、毎回興味深く拝聴させていただいています。

当社の環境への取り組みとしては、一つは売上の6割を占める塗料販売で、焼付温度の低い塗料やVOC削減となるハイブリッド塗料、また省エネ効果の望める屋根向けの遮熱塗料、直近ではアスファルト舗装の表面に遮熱材を塗布し、ヒートアイランド現象の対策となる商品販売の拡販にも力を入れています。また塗料で付加価値機能を持たすことが出来る消臭・抗ウイルス塗料、汚染防止塗料などの拡販にも力を入れ、お客様の環境保全の取り組みに役立てていただけるよう努めております。

もう一つは、省エネルギーとなるLED照明メーカーとしての活動で、自動車メーカー、住宅メーカー、鉄鋼メーカーをはじめ工場の水銀灯代替照明や事務所の蛍光灯代替として数多くの実績を上げております。日本ビジネス出版の「環境ビジネス」においても、国内注目メーカー20社に選ばれました。「環境ビジネス」に当社商品が掲載されたことで、新たなお引き合いも頂き、販促活動にもつなげております。

具体的な販促活動としては、水銀灯や蛍光灯をLED照明に切り替えた際の照度シミュレーション、費用償却の経済シミュレーションなどを作成し、最適な照明環境としてお客様に提案させていただき実績へとつなげて



工場天井照明の施行例

K-CYCLONE85  
(400W水銀灯代替LED照明)

おります。今後も、お客様の環境保全の取り組みに役立つ商品を提案させていただき、本業を通して地球環境保全に取り組んでまいります。

今回は、滋賀建機株式会社様をお願いします。

オーウエル株式会社 京滋営業所  
滋賀県栗東市六地藏 1083  
TEL : 077-553-5451

## 滋賀GPN新規会員募集中!

滋賀GPNでは、滋賀県産エコ商品・エコサービスの表彰制度「買うエコ大賞」や、各種環境セミナーの開催、キャンペーン活動、次世代を担う子どもたちに学びの場を提供する「三方よしエコフェア」等、多岐にわたる活動を展開しています。

私たちの活動を支えてくださる新規会員を随時募集しています。お気軽にお問い合わせください。

● 滋賀GPN正会員 年会費  
一口 1万円/年

(但し、年間活動規模5百万円未満の団体は一口4千円)

※入会金はいただいておりません。

※従業員数に応じて複数口のご負担にご協力ください。

|                   |      |
|-------------------|------|
| 従業員500人未満         | 1口以上 |
| 従業員500人以上1000人未満  | 2口以上 |
| 従業員1000人以上5000人未満 | 3口以上 |
| 従業員5000人以上        | 4口以上 |



## 新規会員から ひとこと

2016年2月21日から2016年7月31日までの入会者  
(団体名の50音順)

### クミノ工房

代表 井上 慎也

オリジナルのきぐみのつみき「クミノ」を通して、木製玩具の地産地消に、森と人との新しい繋がり作りに取り組みます。

### みどりと水のフォーラム

代表 丸山 郁夫

滋賀の恵まれた自然環境の中で、市民が取り組める地球温暖化防止活動や、地域、事業者のニーズに合った環境保全活動を応援します。

### アミタ株式会社

代表取締役社長 佐藤 博之

資源リサイクル、CSR支援、環境認証、地域資源循環モデル構築などの事業を通して持続可能社会の実現を目指しています。

### 有限会社ケーエム建設

営業マネージャー 小島 清子

太陽熱遮蔽塗料、ガラス用透明遮熱コーティング剤を取り扱っております。各団体企業様・個人様もエコ対策に是非ご利用を検討下さい。

### メイドフェイシャルサロン スキップティエラ

オーナー 山本 晶子

ステキにキレイにいつまでも ポジティブにを合言葉に、お化粧品とエステで女性がキラキラ輝くお手伝いをさせていただいているサロンです。

### FTT設立準備会

事務局長 土居 義典

生産者と消費者を対等平等な関係で結び付けます。地産地消・エコ商品・全国美味い物等の紹介・販売事業で実現をめざします。

### 特定非営利活動法人 比叡平・陽だまりの会

理事長 笈田 昭

高齢者や障害者を含む住民が安全に安心して生きがいのある生活を送っていただくために、「環境と福祉」の立場から活動しています。

### ヨコタ農園

横田 尚美

“美味しくって安心”をモットーに減農薬栽培で、米、いちご、プロッコリーなど作っております。フェイスtoフェイス笑顔をお届けします!

現会員数：470 (2016年7月31日現在) [企業392、行政21、団体57]

# 新ロゴマークが 決まりました!

2016年4月より、ロゴマークが新しくなりました。滋賀GPN会員は、無料で使用することができます。環境の取り組みのPRに、ぜひご活用ください。なお、ご利用の際には事前に事務局への申請が必要です。



Aパターン



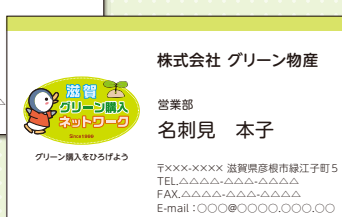
Bパターン



Cパターン

新ロゴマークは3パターン。お好きなパターンをチョイスしてご活用ください!

名刺、会社案内や  
商品紹介の  
パンフレット等で  
ご活用ください。





## 会員発工商品情報

次回掲載情報  
(商品・サービス)  
募集中!

～東近江産杉材を使用した木製玩具～

### 「KUMINO -クミノ-」

#### クミノ工房

ありそうで、なかった、きぐみのつみき。それが「KUMINO」(実用新案登録出願中)です。ピースの形は1種類しか無いのに、遊びは3次元に無限に広がります。子どもたちの創造力と想像力を育む「KUMINO」は、教育関係者からも着目されており、贈り物にも最適だと言えます。素材には、東近江産の杉材を使用。滋賀県生まれのおもちゃです。杉の持つ柔らかく軽い質感に、その香りに、是非ふれてみてください。

- 寸法：18×18×18cm (42ピース)
- 価格：9,072円 (42ピース・税込)



〈お問合せ〉クミノ工房 代表：井上慎也  
〒527-0065 東近江市下二俣町988-2  
(作業場は箕川町)  
TEL：050-3567-9323  
E-mail：mail@kumino.jp URL：http://kumino.jp/

真夏の鉄板屋根を裸足で歩けますか?

### 「タフコート・ナノガードATO」

#### 有限会社ケーエム建設

報道ステーションで松岡修造も大絶賛!  
塗る場所を選ばず、10年以上の効果を持!

【熱交換塗料】タフコートは、塗料に含まれた熱交換成分により、照射された熱エネルギーを消す事が出来る画期的な塗料です。防汚効果もあり、屋根や外壁を汚れから守ります。



国連認証 (カーボンオフセット認証)。

タフコート施行事例

【ナノガードATO】は、窓ガラスに塗ることで熱を遮る効果が得られるコーティング剤です。赤外線を約60～80%カット・紫外線を約97%カットします。本商品は、窓ガラスに塗る事で、熱に変わりやすい赤外線を遮断し、室温を2度ほど下げる効果があり、冷暖房費を抑える事が可能となります。

〈お問合せ〉有限会社ケーエム建設  
〒520-2114 大津市中野3丁目6-23  
TEL：077-549-0010 FAX：077-549-0018  
E-mail：kmkensetu@nike.eonet.ne.jp

## 編集後記

昨年の4月に前任者から引継ぎ、滋賀グリーン購入ネットワークの幹事として参加させていただいております。

引継ぎ後は、グリーン購入に向き合うようになりましたが、まだまだ初心者ですので、みなさまにご指導いただき勉強させていただいております。

昨年1年間は、滋賀GPN事業者実践部会の一員としてフォーラムや事業所見学会等に参加させていただくことで、たくさんの方と情報交換をおこなうことができ、大きな刺激を得られました。

今後は、自身の行動を環境にやさしいものにするとともに、当社の事業でもあります、鉄道・バス等公共交通機関を利用するなど、あらゆる「工コ」を通じ、グリーン購入をはじめとする環境情報を提供し、環境行動を促進していければと考えております。

近江鉄道グループバス事業では環境に配慮する事業者として、平成19年11月20日付で、県内全ての営業所で「グリーン経営認証」を取得いたしました。

私たち近江鉄道グループ従業員は社会の一員であることを自覚し、広く社会とのコミュニケーションを図り、環境に配慮した事業活動を行い、地域・社会の発展に貢献できるよう今後の事業に取り組むとともに、安全で快適な輸送サービスの提供に努めてまいります。

(幹事/近江鉄道(株) 藤原 智章)

先般、何気なくテレビを見てみるとニュースやバラエティ番組で今年は例年にならぬ程の猛暑になるとのこと。昨今は、大規模地震や局地的な集中豪雨など、天候変化が激しく、私たちの普段の生活にも大きな影響が及んでおり、想像を超える環境変化を身近に感じる状況にあります。そのような中で、私自身の環境変化を身近に感じる取組みとして、昨年からの社内紹介で始めた「みずとみどりの研究会」という活動の中のひとつである、「身近な水環境一斉調査」というものに登録をしています。これは、年1回、自身が居住する身近な川の水質調査を実施して報告するものです。具体的には登録をすると調査キットが送られてきて、手順に沿って進めていき、川の水のPH度を測定して報告するものです。調査日は毎年決められており、同じ場所に行き定点観測で報告をしています。

自ら川辺へ行き、水の色や水温あるいは、周辺の木々の環境変化を身近に感じ、改めて環境を維持していくことの大切さを感じています。また、昨年から滋賀GPN幹事となり、滋賀GPNの活動に参加する機会が増え、「環境」をさらに身近に感じるようになってきました。環境活動は幅広く、奥深いですが、グリーン購入による経済活動など、身近な取組みを一つでも実践していきたいと思っています。

(幹事/びわ湖パナソニックファミリー会 日隈 等)



編集・発行／一般社団法人 滋賀グリーン購入ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階 TEL:077-510-3585 FAX:077-510-3586  
Eメール:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:http://www.shigagpn.gr.jp/

